

重要イカ類の資源評価と漁況予測に関する研究

(資源評価調査)

寺門弘悦

1. 研究目的

本県のイカ釣り漁業や底びき網漁業の重要な漁獲対象であるイカ類の資源状況を漁獲統計調査、市場調査により把握し、科学的評価を行なうとともに、資源の適切な保全と合理的かつ持続的利用を図るための提言やイカ類の漁獲状況や漁況予測に関する情報提供を行うことを目的とした。

なお、本調査から得られたイカ類の漁獲動向については、2020年の漁況として別章に報告した。

2. 研究方法

イカ類3種（スルメイカ、ケンサキイカ、ヤリイカ）については、漁獲統計資料の収集を行った。ケンサキイカについては、産地市場で買い取った漁獲物の精密測定を実施し、調査当日の体長組成の推定や成熟度の把握を行った。また、スルメイカについては、調査船「島根丸」による稚仔分調査を実施した。これらの調査結果をもとに（国研）水産研究・教育機構 水産資源研究機構（以下、水産機構水資研）および関係各府県の水産研究機関と協力して魚種別の資源評価を行い、ABC（生物学的許容漁獲量）の推定を行うとともに、漁況予測、漁獲状況の情報共有を行った。

3. 研究結果

(1) 漁獲状況調査

イカ類3種については、漁業種類別漁獲量を集計した。また、5県（長崎県、佐賀県、福岡県、山口県および鳥取県）と協力して各地のケンサキイカ漁況を取りまとめ、「トビウオ通信漁況速報ケンサキイカ情報」として漁業関係者向けに発行した（令和2年10月～令和3年1月）。

(2) 生物情報収集調査

県西部の浜田市場において、沖合底びき網漁業、イカ釣り漁業および中型まき網漁業が漁獲したケンサキイカの精密測定をそれぞれ2回、6回および1回実施した。

(3) 稚仔分布調査

スルメイカ稚仔を対象として、加入量水準を推定する資料とするため、試験船「島根丸」により

改良型ノルパックネット（Nytal 52GG; 0.335mm）を使用して稚仔分布調査を行った。調査は、令和2年10月、11月に計14点で実施した。

(4) 漁況予測

水産機構水資研および関係各府県の水産研究機関と共同で検討し、「日本海スルメイカ長期漁況予報」を令和2年4月と7月に発行した（島根県版は「トビウオ通信」令和2年第4号および第6号として発行）。また、秋季のイカ釣り漁業でのケンサキイカ漁況を予測し、令和2年9月に「トビウオ通信」令和2年第8号として発行した。

4. 研究成果

調査結果は水産機構水資研に送付され、スルメイカ秋季発生系群、ケンサキイカ日本海・東シナ海系群およびヤリイカ日本海系群の資源評価に活用された。また、各ブロック資源評価会議に参加し、管理方策の提言を行った。スルメイカ秋季発生系群では研究結果から推定されたABC（生物学的許容漁獲量）を基に、TAC（漁獲可能量）が設定された。